

JASPER (Joint Attention, Symbolic Play, Engagement and Regulation) 関連の研究である。JASPER は、発達心理学や応用行動分析学の知見をもとに、遊びを通して子どもが他者との自然な関わりの中で社会的行動や象徴的遊びを育むプロセスに焦点を当てており、理論と実践の両面で卓越している。

JASPER の特長は、支援者が子どもの興味や自発性を尊重しつつ、一定の構造（ルーティン）やプロンプト、模倣を活用して、より長く豊かに他者と関わることを支える点にある。その理念と手法を理論から実践まで一貫して解説したのが、本書『JASPER 実践マニュアル』である。

本書は、理論的背景から具体的支援技法に至るまでを体系的に整理し、支援者が「遊びを通じて何を、どのように支援すべきか」を具体的かつ明快に示している。豊富なエクササイズやQ&A、実際に使えるワークシートが随所に配置され、学んだ知識をすぐ実践できる構成も秀逸だ。各章末の要点整理図も大変わかりやすい。

特に印象的だったのは、49ページ以降で紹介されるSPACE（短い遊びとコミュニケーション評価）である。的確なアセスメントなくして良質な介入計画は立てられないが、本書では評価から介入目標の設定、実行、再評価に至るまでを一貫したPDCAサイクルとして示している。支援者用チェックリストや評価フォームも充実し、再現性の高い支援に役立つ。このような実装可能性の高さこそ、JASPER が国際的に広く採用されてきた理由の一つだろう。

JASPER の根底にあるのは、子どもを「コントロール」するのではなく、常に子どもと「共創」する姿勢である。支援者は指示を与えるのではなく、子どもの関心と自発性に寄り添いながら主導権をシェアする。遊びを“教える”のではなく、子どもとともに遊びを築くその過程自体を通して社会的相互作用が育まれるという視点は、まさにJASPER の核心であり、発達支援の理想を体現している。

また、本書に収められたお手紙形式の事例紹介も秀逸だ。支援者がセッションで直面しがちな具体的課題——たとえば「活発な子どもにどう関わるか」「遊びの主導権をどう保つか」といった問い——に対し、理論だけでなく温かみと実践知に満ちたアドバイスが示される。柔らかくで親密な文体は、支援者自身が「どう指導するか」ではなく「どう関わりたいか」という本質的な問いを自然に引き出してくれる。

JASPER 実践マニュアル

自閉スペクトラム症児のための早期支援モデル

コニー・カサリ, アマンダ・C・ガルスルート,
ステファニー・Y・シャイアー,
クリスティナ・ストロウブリッジ著
黒田美保, 辻井正次監訳

金剛出版, B5判 450頁, 4,620円, 2025年7月刊

(ADDS) 熊 仁美

私の博士課程での研究テーマは、自閉スペクトラム症 (ASD) のある子どもたちにおける共同注意の発達と介入であった。子どもが他者と注意の対象を共有するその瞬間の視線や指さしといった行動が、どのように言葉や社会的相互作用の基盤となるのかに深い関心を抱いていた。

当時、文献を渉猟するなかで幾度も引用したのが

JASPERは、インクルーシブな支援環境の重要性も明確に位置づけている。遊びを通じた支援は、特別な指導室にとどまらず、保育園や幼稚園、家庭など日常の場で展開できる。子どもを取り巻く複数の環境が連携し、より包括的な発達支援が可能となるだろう。

長年にわたり積み重ねられてきた頑健なエビデンスを背景に、本書が日本の支援者に届いた意義は大きい。コニー・カサリ博士をはじめとする著者陣、そして日本語版監訳者の方々の尽力に深い敬意を表したい。本書は、日本の早期発達支援の実践者にとって、折に触れて読み返す必携書となるに違いない。

原書：Connie Kasari, Amanda C. Gulsrud, Stephanie Y. Shire, Christina Strawbridge : The Jasper Model for Children with Autism : Promoting joint attention, symbolic play, engagement, and regulation
